水俣病

水産庁の漁民対策

海洋調査を急ぐ

真珠養殖へ転換援助

水俣病の原因が「ある種の有機水銀化合物」であると厚生資料衛生調査会が断定したのと並行して、関係各省庁では汚染海域の浄化対策をつくり、活発な動きを示してきた。まず農林省では「水俣湾をしゅんせつし、湾を埋めたてる」案について技術的現地調査を行なうことを発表、さらに十三日には水産庁が同日の閣議で福田農相が「水俣病の漁民対策を考えたい」と発言したのについてその具体策をつぎのように固らかにした。

一、水質は潮の流れ、魚の移動状況など海洋学的調査を行ない、厚生省の医学的調査に協力して原因究明を急ぐ。そのため同庁漁区水産研究所（神戸市）のエキスパートを西海区水研（長崎市）に派遣、西海区水研を中心に行なう。

一、沖合漁業に転換できるものは対馬のいか釣り漁業に出漁するよう指導を行なう。

一、湾内に転換できないものには真珠の母貝（あこや貝）の養殖に切り換える。

一、農林省農地局に依頼して湾内一部の干拓を検討する。

一、これに要する費用のうち本年度分は沿岸漁業振興費を既定経費から支出、来年度分は追加要求して大蔵省と折衝する。

結論は早計
池田通産相、慎重な調査要望

渡辺厚相は十三日の閣議で水俣市を中心に発生している〝水俣病〟について厚相諮問機関の食品衛生調査会が十一日「水俣病の原因はある種の有機水銀化合物である」と結論を出したことを報告した。地元漁民は水俣病が新日本窒素水俣工場からの廃液が原因ではないかと同工場の排水ストップを要求している。しかし同様な窒素工場は全国に二十カ所あるが、この廃液の成分はいずれも無機水銀であり、しかもこの種の奇病が発生しているのは水俣市だけであることなどから、池田通産相は「水俣病の原因である有機水銀が新日本窒素水俣工場から流れ出していると結論するのは早計である」と慎重調査を要望した。

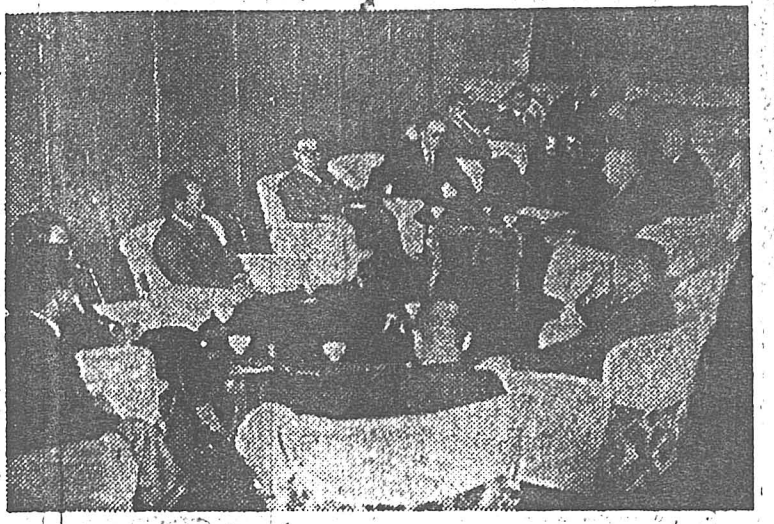
また福田農相は「魚が死れなくなった水俣付近の漁民を真珠養殖に転業させてはどうか」と発言したが、結局有機水銀化合物がどうして有機化合物にかわるのか、水俣工場廃液中の無機水銀がどうして有機化合物に変わるのかなどの点について、さらに水産庁が中心になり詳細な調査を進めることになった。

対策特別委
議北町議会に設置

議北部議北町議会は十二日午前十時から開き、平谷林道開発分担金徴収条例の制度を原案通り可決したあと、漁上議員の緊急動議により水俣病対策特別委員会を設置、町内漁民と関係海域住民のための生活保護の徹底、漁村の青少年のための先進漁業地帯への修学旅行実施などを決議文を持って陳情、その後直ちに上京、関係各省に協力を要望することになった。

なお同委員会は委員長横原雄一氏副委員長山石藤九郎氏ほか委員六人で、十三日初委員会を開き町当局も漁民の生活保護、近海漁業への転換援助、就職あっせんなど協力することを申し合わせた。

十五日吉田町長、井上議長らが県



（で室別特洋太）会告報の会成期同